

するもの。本学からは毎回多くの学生が参加しており、今回も参加大学中最多となる60チームがエントリーした。12月19日には横浜市のパシフィコ横浜で表彰式が開催され、受賞チームに賞状と賞金が授与された。
最優秀賞を受賞した3チームの代表に提案の内容や感想などを聞いた。

3チームが最優秀賞

神奈川県内の大学と(社)神奈川経済同友会による課題解決型研究コンペ「第10回神奈川産学チャレンジプログラム」の結果が発表され、本学では3チームが最優秀賞を、8チームが優秀賞を受賞した。
同プログラムは神奈川経済同友会に所属する企業・団体からの課題に、学生チームが大学で学んだ専門分野を生かして解決案を提案



ひた向きさ結果に

沿線地域の食を掘り起こす「K級グルメ」と、それを生かしたイベントを企画しました。課題となったエリアには既存のイベントが多く、新たなアイデアを生み出すのはとても大変でした。

目的意識を持って、ひた向きに取り組んだことが結果につながったのだと思います。また、最優秀賞を受賞したことで評価される喜びと感動を味わうことができました。

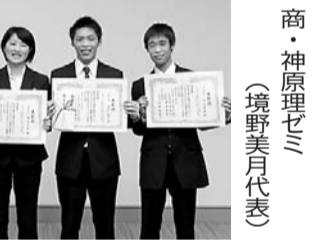


商・碓朋子ゼミ

分かりやすさ第一

他のチームが考えつかないような提案にしようと、時間をかけてアイデアを出しました。「バーチャル導入」という提案内容が決まっただけで、いかに分かりやすく伝えるかを考え、パワーポイントの作成や発表の仕方を工夫しました。

このプログラムでは「チームで企画し、企業の方にプレゼンする」という貴重な体験ができました。この経験を今後生かしていきたいです。



経営・森本祥一ゼミ

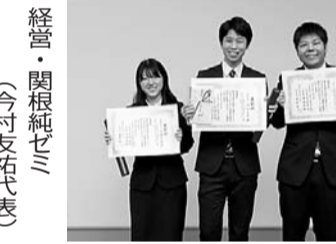
個の強みを生かす

企業が持つ特許を活用した企画として、ITを用いた最適なサービスと未来センターを提案しました。ゼミではこのプログラムに備え、日ごろからプレゼンテーションの練習を重ねています。そこで学んだ人前での話し方やスライドの効果的な見せ方などを本番で発揮することができました。また、メンバー一人ひとりの強みを生かしたことで、発表内容に深みが生まれ、役割分担の重要性を学ぶことができました。

経営・矢澤清明ゼミ

川上理華代表、五十嵐稜介、市川健太の3年次課題「バッテリーパレスの特許権を使用し、サービスの向上とリピーター客の増加策の提案」(相模石油)

優秀賞に8チーム



能を知るワークショップ

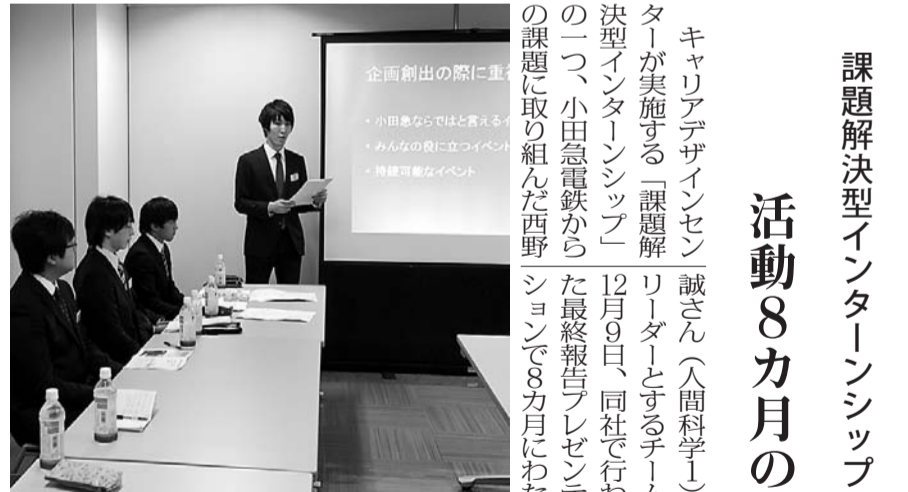


型を上演する林氏。質疑応答で、林氏は「能には静と動の作品がある。初めに見るものとしては動の作品『蜘蛛』が良いのでは」と応じるなど、能の魅力を伝えた。

京観世林家 次期十四世 林宗一郎氏が講義。濱崎加奈子文学部准教授が担当する専門科目「比較文化研究2」に、観世流能楽師シテ方で京観世林家次期十四世の林宗一郎氏が講師として登壇。学生40人は、日本文化の源泉の一つである「能」を知るワークショップを体験した。



ワークショップは12月18日に生田キャンパスで開講された。林氏は「能とは何もないところに謡や型で作品を表現する、想像にゆだねる芸能」と話し、能のルールを紹介した。講義の後半には、「老松」の節の歌い方や、型の一つを指導。学生たちは声を出したり、体を動かし、能を体験した。



▲ 最終報告プレゼンテーションの様子

キャリアデザインセン誠さん(人間科学1)をリーダーとするチームが「課題解決型インターンシップ」の最終報告プレゼンテーションで8カ月にわたる活動、PR企画の提案。11人のメンバーたちは学生180人にアンケート調査などを行い、企画を立案した。

活動への参加意欲を刺激する企画」などを意識したもので、プレゼンに出席した社員からは「新しい着眼点があり、詰めていけばもっといいアイデアになる」「キャッチコピーが素晴らしい」といった感想が寄せられた。西野さんは「リーダーとして、多くの意見を取りまとめ、テーマに取り組みしていくことが一番大変でした。粗削りな企画でしたが、社会人の方から意見を伺い、評価していただいたことは自信につながります」と活動を振り返った。

両企画は「自分たちが参加したい企画」「E.C活動」をPRする企画の二つ。

提案されたのは「学祭十エコ」をテーマに学園祭で古着の販売を行うイベント企画と、同社が販売する飲料水「箱根の森」から「を用いて同社のエコ活動をPRする企画」の二つ。

両企画は「自分たちが参加したい企画」「E.C活動」をPRする企画の二つ。

両企画は「自分たちが参加したい企画」「E.C活動」をPRする企画の二つ。